



只見町ブナセンターだより

<ごあいさつ>明けましておめでとうございます。ただみ・ブナと川のミュージアムおよびふるさと館田子倉は雪に負けずに開館しております。是非、ご来館ください。

=====**活動報告**=====

【写真展】「この写真、どこ？だれ？何してる？」

— 皆川文弥が撮った只見線が開通した頃の只見 —

2022年8月11日～11月28日の間、ふるさと館田子倉の2階会議室において写真展を開催しました。只見線開通記念に合わせての開催ということもあり、多くのお客様にご覧いただいた写真展となりました。また、付箋にて知り得る情報の提供を募り、83枚という貴重な情報を残していただきました。そのことにより、1枚の写真が更に楽しめました。情報を提供してくださった皆様には、心より御礼申し上げます。



夕沢集落？(布沢？)



只見百貨店 只見で唯一、海産・青果食品・雑貨を扱っていた



木に掛けてあるのは高灯笼？(中ノ平？)



叶津旅館 (現ビストロ叶屋、叶津)



布沢分校(布沢)



東邦銀行 当時は只見字田中に存在した



布沢の水害(昭和44年、布沢)



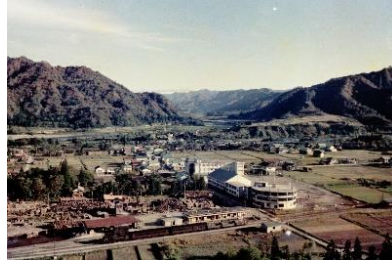
五ノ井商店 扇屋支店



豪雪(昭和45年3月)



冬起しのためのカヤ掛け準備
(昭和 46 年 3 月)



旧只見中学校 円型校舎



瀧泉寺(黒谷)



只見薬局 現只見商工会前 他に
イセヤ薬局があった



駅前通り



福の床屋(昭和 39 年 6 月、
新屋敷)



石伏?(昭和 63 年 7 月)



「十島桑」の記念木(昭和 35 年
11 月)



只見祭り 子供神輿が各集落で
行われた



旧只見中学校体育館



田中プール 丸平金物店の後ろ



早乙女踊り(小林)



早乙女踊り(小林)



只見小学校運動会



浅草岳山頂直下:天狗の庭での
フォークダンス(昭和 44 年 7 月)



この時代は田子倉ダム展望台への定期運行バスがあった!



只見郵便の雪上車



滝湖でのハヤ釣り(塩沢)



旧只見町役場庁舎(昭和39年6月)



宮前(昭和38年1月)



浅草岳登山口行きバス(昭和39年10月)



国道の常時開始時のブルドーザー一群(昭和35年11月)



中丸橋(昭和39年6月、塩沢)



十島の「桑苗畑」?



田子倉ダム展望台 共益売店



田子倉ダム建設時、測量をしていた町民(左から2番目男性)



電源開発会社(現JPハイテック)



吉尾分校 これは珍しい!(布沢)



布沢分校前 災害の現場視察 菅家徳三郎町長(昭和44年)



浅草岳山頂直下にあった「ロボット観測所」(昭和38年5月)



叶津番所(昭和 44 年 10 月)



只見小学校入学式 旧米屋商店
通り(昭和 43 年 4 月)



田子倉の八幡神社(移転後)と
旧田子倉に住んでいた人々
神社落成式(昭和 37 年 9 月)



イワナの干物



春先の肥引き(昭和 41 年
3 月)



昔、町で販売していた「なめこの
置き物」を作成しているところ
(昭和 41 年 1 月)



田んぼの草取り(昭和 39 年
7 月、宮前?)



鉄索(昭和 39 年 7 月)



ゼンマイ揉み



只見中グラウンド(手前)
只見町役場庁舎(左手)



只見駅から田子倉ダム方面を望
む 左は只見円型校舎



只見沢(田子倉)を渡る列車



建設中の田子倉駅



建設中の田子倉駅



只見駅周辺



1.機関車 2.マックレー 3.ロータリー 4.機関車 の順に連結された「キマロキ」編成 只見駅前



マックレー車「キマロキ」



「キマロキ」蒸気機関車がついている 只見駅前 奥の山は蒲生岳



菅家徳三郎町長(中央)



只見駅 後方は旧只見中



田中角栄氏(左) 伊藤正義氏(中央)
木村守江知事(右)



木村守江知事 菅家徳三郎町長

【自然観察会】

秋から初冬の野鳥観察会：開催レポート

No.	目名	種名	10月29日	11月26日
			檜戸	塩沢
1	カモ	コハクチョウ		●
2		オオハクチョウ		●
3		ヒドリガモ		●
4		マガモ		●
5		カルガモ		●
6		コガモ		●
7		ホシハジロ		●
8		キンクロハジロ		●
9		スズガモ		●
10		ホオジロガモ		●
11	カイツブリ	カイツブリ		●
12	ハト	キジバト	●	●
13	カツオドリ	カワウ	●	
14	ツル	オオバン		●
15	チドリ	イカルチドリ	●	
16	タカ	トビ	●	●
17		クマタカ	●	
18	ハヤブサ	ハヤブサ		●
19	スズメ	モズ	●	●
20		カケス	●	
21		ハシボソガラス	●	●
22		ハシブトガラス	●	●
23		ヤマガラ	●	
24		ヒヨドリ	●	●
25		ウグイス		●
26		エナガ		●
27		カワガラス	●	
28		ジョウビタキ		●
29		スズメ	●	●
30		ハクセキレイ	●	●
31		セグロセキレイ	●	
32		カワラヒワ	●	
33		ベニマシコ		●
34		シメ	●	
35		ホオジロ	●	
36	カシラダカ	●		
計	9目	36種	19種	25種

2022年9月から11月の毎月最終土曜日に、野鳥観察会を企画しました。1回目(9/24:大倉地区)は荒天のため中止となってしまいましたが、それ以降は予定通り開催でき、2回目(10/29:檜戸地区)は13名、3回目(11/26:塩沢地区)は14名の参加がありました。観察会では特に、秋の渡りの途中で通過する「旅鳥」や、越冬のために渡来する「冬鳥」の観察を目的としました。目視による探索とともに、繁殖期と違ってこの時季はさえずりが聞かれないため、「地鳴き」による識別も重要となってきます。2・3回目で確認された種はリストの通りで、のべ36種でした。

多くの旅鳥の通過時期に当たる1回目が中止となってしまったので、旅鳥は確認されませんでした。しかし、冬鳥はカモ目などの水鳥やスズメ目を中心に15種が確認されました。これは、3回目開催地である塩沢地区の滝湖が只見町における水鳥の主要な渡来地となっているためです。滝湖はダム湖としては水深が浅く、浅瀬や岸に水草が生育しているため、それらを餌とするカモ類にとって格好の生息場所と言えるでしょう。優美なオオハクチョウが家族単位で見られた他、数の多いホシハジロやキン

クロハジロに混ざって、寒冷地性のホオジロガモが見られました。猛禽類では、檜戸地区において今年巣立ったと思われるクマタカの幼鳥が見られた他、滝湖では水鳥を狙うハヤブサが出現し、どちらも参加者を魅了していました。ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。

野鳥観察会で撮影された種



▲コハクチョウ：滝湖では冬の間よく観察できる



▲ホオジロガモ：寒冷地性のカモで個体数はやや少ない



▲オオバン：ツル目クイナ科の冬鳥で、水草を好んで食べる



▲クマタカ：樫戸地区で見られた幼鳥



▲ハヤブサ：水鳥を狙って滝湖に現れたと思われる



▲カシラダカ：林縁や草地などで普通に見られる冬鳥

【講座】

自然を活かした里山の知を地域博物館で『見える化』する：2022年12月17日

十日町市立里山科学館 越後松之山「森の学校」(通称キョロロ)の学芸員・小林誠氏を講師にお招きし、標題の講座を開催しました。会場の只見振興センターでは、渡部勇夫町長をはじめ16名が聴講しました。講演では、十日町市と只見町が共通する「豪雪地ならではの自然、生物と文化の多様性」について解説して頂き、



続いて「里山の知を地域博物館で『見える化』する」ためのキョロロの諸活動の紹介、そして最後は「見える化」の成果として表れてきた地域の変化などが、豊富な具体例とともに話されました。ブナセンターと同規模の博物館で活躍されている小林さんの優れた取り組みの数々から、多くを学ばせて頂いた2時間でした。

【自然観察会】

冬のブナ林観察会：2022年12月17日

「季の郷湯ら里」近辺の林を観察地とし、同日午前中の講座出席者など12名の参加がありました。積雪深は30cm程度と少なく、長靴だけでも問題のない条件でした。山裾に広がるスギ林に入り、そこを抜けると急斜面の先にブナ林がありました。かつて薪炭林として利用されていたブナ二次林の中に、観察会の目玉である5本のブナ巨樹が聳え立っていました。これらのブナは、あまりに太かったため薪炭材としての伐採を免れたのだと考えられます。また、山裾ではスギ林に混交する落葉広葉樹を観察しました。只見町内の参加者からは「カツラは香ノ木と呼ばれるように香りが良いため仏壇に用いられた」「漢方薬に使われるキハダは虫除けにもなるので着物の染料に用いた」といった地域の伝統知が語られました。午前の講演で学んだ伝統知を観察会の参加者が披露する実践の場ともなりました。



【撮影協力】

「ワイルドライフ『鳥を襲う最強ハンター カマキリ 究極の狩りを見た!』」撮影協力

2022年11月7日にNHK BSプレミアムで放送された番組「ワイルドライフ『鳥を襲う最強ハンター カマキリ 究極の狩りを見た!』」にブナセンター専門指導員の吉岡義雄が撮影協力と出演をしました。番組には町内で撮影された映像や只見のオオカマキリも出演しました。



▲オオカマキリの威嚇：黒紫の後翅と前肢の間のクリーム色が特徴

雪深く寒冷な只見に生息

するカマキリは少なく、オオカマキリとコカマキリの2種のみが確認されています。一方、生息に適した草地や獲物となる昆虫が多いため、この2種の個体数は多く、畑地や人家付近でもその姿を見ることができます。ご視聴いただいた皆様に町民にとっても身近な虫であるオオカマキリの魅力が伝わったなら幸いです。

===== その他・お知らせ =====

【只見町ブナセンター後援による写真展のお知らせ】



「おかえり只見線～只見線と奥会津の生きものたち～」

猪苗代町にある「アクアマリンいなわしろカワセミ水族館」にて、写真展「おかえり只見線～只見線と奥会津の生きものたち～」が開催中です。計 47 点に及ぶ写真のうち、只見線沿線で見られる四季折々の生き物を捉えた 21 点を、只見町ブナセンターが提供しております。

【会期】2022/12/17(土) ～ 2023/3/5(日)

【会場】アクアマリンいなわしろカワセミ水族館 1号館(〒969-3283 耶麻郡猪苗代町長田東中丸3447-4)

只見町ブナセンター 令和4年度行事一覧（予定）

企画展

開催期間	タイトル	会場
2022/10/29 - 2023/3/27	自然素材を活かす技 - 木地、編み組、草木染めと伝承製品の魅力 -	ただみ・ブナと川のミュージアム 2階 ギャラリー

学術調査研究成果発表会・観察会

開催日	タイトル	会場
2023/1/29（日）	令和4年度「自然首都・只見」学術調査研究成果発表会	只見振興センター 1階 集会室
2023/3/11（土）	冬のブナ林観察会（仮） ※詳細は Facebook・HP に掲載予定	

== ブナセンター職員のコラム「昆虫標本（バッタ類）の作成」 ==

標本は、その昆虫がいつどこにいたかを示す貴重な証拠です。また、標本を作成して細部を顕微鏡で観察したり、解剖したりしなければ正確な同定をすることができない種も少なくありません。地域に生息する昆虫を採集し、標本を作成・保管することは、博物館の重要な使命の一つです。

ここでは作製中の標本の話をししたいと思います。右の写真は昨年秋に展足をし、形を整えたイナゴモドキというバッタの仲間です。カブトムシやチョウなどの標本は背中から針を刺して固定しますが、バッタはこのように横向きに寝かせて針を刺すことが多いです。バッタの同定は側面から観察して行うことが多いため、このような横刺し標本の方が適しているのです。



▲^{てんそく}展足中のイナゴモドキ

バッタの標本は色落ちが激しいのが困りものですが、冷蔵庫もしくは冷凍庫の中で半年以上の長い時間をかけて乾燥させると色が残りやすくなります。体色が同定に役立つことがあるほか、標本は記録だけでなく、来館者の皆さまにご覧になっていただくための展示物でもあるため、この手間と時間を惜しまないのが大切です。

<編集後記>

多くの昆虫が眠る冬。この間に夏から秋に採集した標本の整理や来年度の調査の計画を行います。貴重な1年を実りあるものにできるかは今にかかっているとと言っても過言ではありません。（吉岡）

発行 **只見町ブナセンター** 〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下 2590 番地



只見町ブナセンター



電話 0241(72)8355

ホームページ <http://www.tadami-buna.jp>

FAX 0241(72)8356

電子メール info-buna@amail.plala.or.jp

Facebook <https://www.facebook.com/tadami.buna>

附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」・「ふるさと館田子倉」

開館時間：午前9時～午後5時（最終受付は午後4時まで）

休館日：火曜日（祝祭日の場合は翌平日）、年末年始（12月29日～1月3日）

入館料：高校生以上 310円（20人以上は団体割引） 小・中学生 210円

只見町在住の小・中・高校生 無料